

「見方が変わると、味方になる」

馬渡 徳子

コロナ禍も2年半を経過。6年目を迎えた「無料塾寺子屋えがお・子ども食堂」は、地域の様々な方々の参画が得られようになり、ますますもってごちゃまぜ感が満載の地域のおもしろい場所になっている。

5月の運営会議で、「コロナ禍をともに生きるお互いを、労い合う企画を夏休み前に出来たらいいね」と、7月頭に友人の心療内科医師をお迎えして、「セルフメンタルヘルスとピアサポート」についてのワークショップを行った。

講師は、石川県内において「少数派の疾患や他者にはわかりづらい障がいとともに生きる人々のピアサポートグループ活動」支援実績のある方で、様々な業種や役割をもつ「支援者支援」においても、事例検討会や抄読会などを通じて支援実績のある方だ。

その時のキーワードが、今回のテーマ「見方が変わると、味方になる」である。

椅子のみでの円陣で、気分調べから始まるこのような形式が初めての方々は、緊張の面持ちが伺えたが、マガジン執筆者のお一人である水野スウさんとの共催で15年目を迎えた「松浦幸子さんのSST」を、この場所で経験している金沢大学の学生さん達が、場を和やかにしてくれた。

家庭でも学校でも職場でもないこの無料塾寺子屋えがお・子ども食堂が、自分にとってまた子どもたちにとって、どのような場所になっているのか、率直に語り合うことにつながった。

「自分は、支援される側・もてなされる側が、いつの間にか運営する側にもなっていて、これが良かったとの

感想を新たな手段に変えてくれて嬉しかった。」

「ここは安心して空気が吸える。」
「タイミングよく、気づきを率直に伝え合う場面が多くて、居心地がいい。」
「会場にいろんな部屋があり、どこでどんな風に過ごすかを自分で決められる。」

「創設当初から、元職を活かして何かお役に立てたらと思って参加してきたが、様々な人生を歩まれる多様な価値観をもつ人々に出逢って、実は元気になったのは自分の方。地域の人々を誘いたい。」

「自分を緩めている。」

「人は見かけじゃないな。」等々

このワークショップで励まされた私たちは、子ども世代に感染者が拡大する予兆が見られたことで、「この夏休みは、これまでとは様相が違うね」と話し合い、ずっと躊躇していた新たな形での広報に挑戦をした。

この作業は、外国留学から帰国した高校生と、その親で学習支援担当の方が取り組んでいる。

SNSの力は、予想外の反響で「公式インスタグラム」を観ての新規利用者が増えた。コロナ禍の様相が変化した時期、2020年から宅配機能ももっていることが奏効したし、新たな飲食店からの支援依頼にもつながり、空き調理時間を日用品のリユースにつなげることもできた。

正に「見方が変わると、味方になる」を実感している。

<https://www.instagram.com/terakoyaegao4/>

公式インスタグラムです。